

イタリア・アカデミックな歩き方

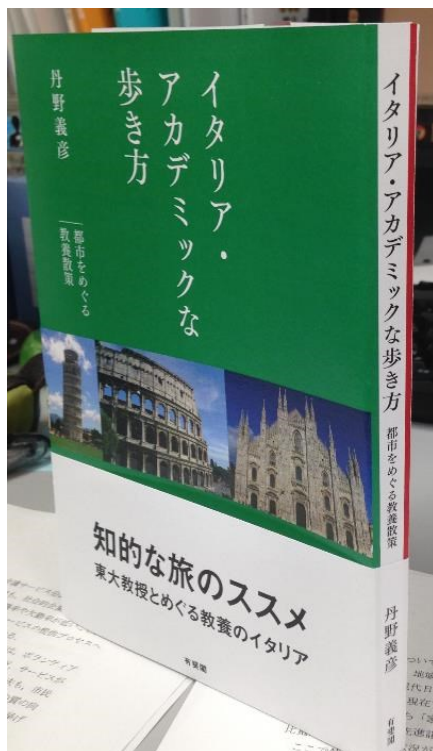
イタリア・アカデミックな歩き方 都市をめぐる教養散策

丹野義彦 (東京大学総合文化研究科教授)

有斐閣 2015年12月25日刊

2016年2月6日

イタリアへの知的な旅のススメ



イタリアが大学発祥の地だをご存じでしたか？ 旅行ガイドブックには載っていないひと味違う「知のテーマパーク」をめぐるイタリア・ツアーを紹介します。

私はイタリアの専門家ではなく、心理学・教育学を専門としております。本書は教育学という観点からイタリアを紹介したものとして、イタリアに興味を持つ読者の方々の広い関心を得られるのではないのでしょうか。

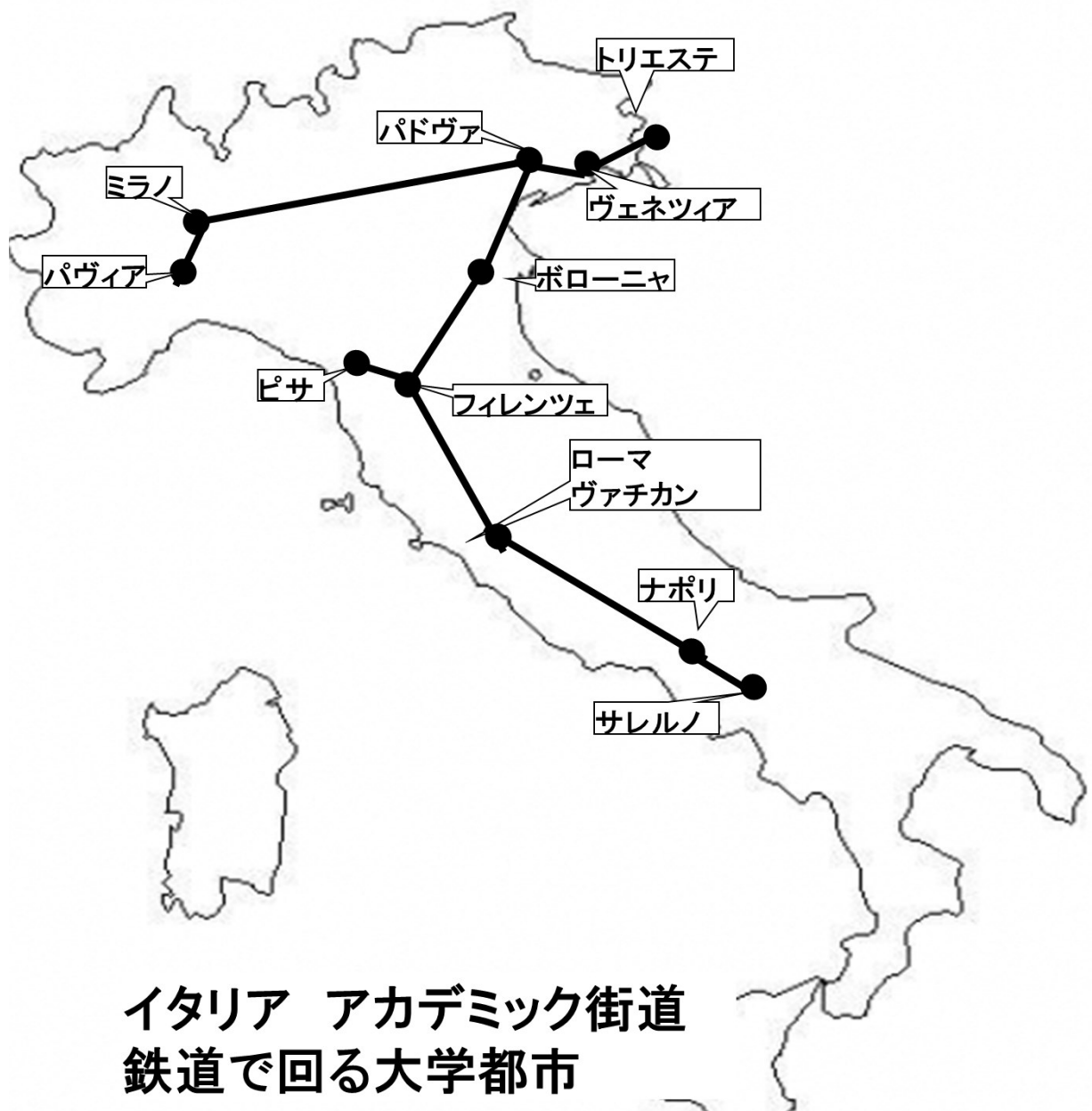
本書のボローニャ論が、2014年度大学入試問題にとりあげられました。

平成国際大学 平成 26 年度AO入試 小論文問題

「この文章を読んであなたの考えを 500 字以内で述べてよ」

<本書の目次>

第1章	ローマ	宗教と科学がせめぎ合う歴史都市
第2章	ボローニャ	一度は行ってみたい大学発祥の地
第3章	フィレンツェ	ルネサンスを生んだアカデミーの街
第4章	ピサ	斜塔を支えるテクノロジー都市
第5章	ヴェネツィア	文化と環境の都市としてよみがえる街
第6章	パドヴァ	科学革命発祥の地
第7章	トリエステ	精神分析学と関連が深い街
第8章	ミラノ	ダ・ヴィンチが活躍したルネサンスの街
第9章	ナポリ	エロティック・アカデミック都市



■本書の〈はじめに〉より

イタリアの大学散歩

本書はイタリアの9つの都市をめぐり、大学散歩を試みたものです。

イタリア各地の大学や学術施設を訪ね、歴史・学問・社会とのかかわりなどを紹介しました。

海外の大学を散歩する楽しさを伝えるために、私は『こころの臨床ツアー』として、ロンドン編、アメリカ編、イギリス編の3部作を刊行してきましたが、本書はそのイタリア編にあたります。

大学散歩の魅力

イタリアの魅力はさまざまです。古代ローマ帝国やルネサンス芸術を回る観光、イタリア料

理、ワイン、ファッション、地中海クルーズ・・・。本書では、これらに加えて、「大学巡り」という新たな魅力を紹介したいと思います。

イタリアは大学発祥の地です。また科学革命発祥の地でもあり、法学発祥の地でもあります。また、イタリアの大学には旅行ガイドブックには載っていない「知のテーマパーク」があちこちにあります。ボローニャのアルキジナジオ宮やポッジ宮、パドヴァのボー宮、ミラノの大学本部（旧マッジョーレ病院）やブレラ宮などです。こうしたアカデミックな名所を歩きながら、各都市の魅力を紹介してみたいと思います。これによってイタリアの新たな魅力を見いだすことができるでしょう。

イタリアのアカデミック街道を歩いてみませんか

イタリアほど各都市の個性が違う国もありません。ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア、ミラノ、ナポリ、すべての都市が全く違った歴史を持ち、違った顔をしています。日本ではどの都市もだいたい似たり寄ったりの歴史を持ち、大学のキャンパスもだいたい同じような構造をしています。都市の個性というものがありません。これに対して、イタリアでは、どの都市も他の都市と似ていません。大学も個性あふれています。イタリアの都市や大学の個性を知ることとはとても面白いエンターテインメントです。大学を散歩することによって、大学だけではなく、その都市全体の個性を味わうことができるでしょう。その意味では、本書の主人公は都市そのものといえるかもしれません。本書はそうした都市歩きの楽しさも伝えたいと思います。

本書ではイタリアの9都市を回ります。

日本から飛行機の直行便が出ているのはローマとミラノだけですが、都市の間は鉄道で簡単に回ることができます。日本の新幹線と同じように、長くても2～3時間で着きます。ローマやミラノから日帰り旅行をすることもできます。

9つのうち、ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア、ミラノ、ナポリはイタリアの5大都市であり、交通の便も良好です。また、ボローニャ、ピサ、パドヴァ、トリエステは中都市であり、大都市から少し離れていますが、電車で簡単に行くことができます。

各都市を結んだ線はイタリアの「アカデミック街道」と呼んでもよいでしょう。本書はアカデミック街道を縦断しながら、各都市の学問史を尋ねる試みといえるでしょう。

イタリアの大学

イタリアは大学発祥の地です。表0に示すように、最も古いのはサレルノの医学校とされますが、これはすでに消滅しています。現存する最古の大学はボローニャ大学です。この大学は法学発祥の地でもあります。

その後ボローニャ大学の教員や学生が移動して、各地に大学が作られました。その多くはすでに消滅してしまいました。現代まで残っているのは、パドヴァ大学、シェナ大学、ナポリ大学、ローマ大学などです。これらは700年以上の歴史を持つ名門大学です。中には、フィレンツェ大学のように、一度消滅して20世紀になって再出発した大学もあります。

表0 イタリアの大学の創生期

創設年 大学

-
- ? サレルノ医学校 (消滅)
- 1088年 ★ボローニャ大学
- 1188年 レッジオ大学 (消滅)
- 1204年 ヴィチェンツァ大学 (消滅)
- 1215年 アレッツォ大学 (消滅)
- 1222年 ★パドヴァ大学
- 1228年 ヴェルチェリ大学 (消滅)
- 1246年 シェナ大学
- 1224年 ★ナポリ大学
- 1244年 ★ローマ大学：教皇庁立 (吸収)
- 1248年 ピアチェンツァ大学 (消滅)
- 1303年 ★ローマ大学：ローマ市立
- 1308年 ペルージア大学
- 1318年 トレヴィゾ大学 (消滅)
- 1343年 ★ピサ大学
- 1349年 ★フィレンツェ大学 (吸収)
- 1361年 パヴィア大学
-

出典 ラシュドール『大学の起源』

★は本書で詳しく取りあげた大学

イタリアの特徴は、大都市と大学街が分かれて発達したことです。フィレンツェでは、フィレンツェ大学はあまり発展せず、近郊のピサに作られたピサ大学が大きく発展しました。ついにはフィレンツェ大学はピサ大学に吸収されてしまいました。同じような関係は、ヴェネツィアとパドヴァ大学、ミラノとパヴィア大学にも見られます。ヴェネツィア大学やミラノ大学は20世紀になって作られた新しい大学です。ロンドンとオクスフォード大学・ケンブリッジ大学との関係に似ています。

それでは、名門大学のなかったフィレンツェやヴェネツィアやミラノでは、学問や文化は発展しなかったのでしょうか。そうではありません。これらの都市では、宮廷・アカデミー・図書館・教会といった大学以外の機関において学問や文化が発展しました。その代表はフィレンツェのメディチ家の宮廷とプラトン・アカデミー、ミラノのスフォルツァ家の宮廷とダ・ヴィンチのアカデミーです。イタリアのルネサンス文化は、大学ではなく、宮廷やアカデミーにおいて発展しました。

本書では大学を中心として回りますが、文化の中心となった大学外の機関も尋ねてみることにします。

バーチャル・ツアーのすすめ

本書には写真をできるだけ入れるようにしました。これは私がデジタル・カメラで撮った拙

い写真ですので、皆様にはぜひご自分の目で確かめることをお勧めします。

本書はバーチャル・ツアーにも対応しています。インターネットにより、海外旅行の疑似体験が容易になりました。大学のホームページは大量の情報を提供していますし、写真やパノラマビューでキャンパスのバーチャル散歩ができる大学も増えています。グーグルマップのストリート・ビューなどのサイトを利用すれば、その地の映像がすぐに見られます。

日本の大学では、大学へのアクセス法やキャンパスマップがネットで公開されていますが、イタリアの大学ではまだそうした状況がありません。大きな大学でも、アクセスはグーグルマップ任せというところが多いのです。わかりやすいキャンパスマップが作られていないので、大学キャンパスを調べるためには、自分で直接現地に赴いて歩いてみるしかありません。そうしたキャンパス散策の助けとなるように本書をご利用いただければ幸いです。

本当に面白いことはネットには出ていない

万能のように思えるインターネットですが、必要な情報が見つからないことが意外に多いものです。ネットの検索には思ったよりも時間がかかります。何よりネット情報の最大の欠点は断片的であることです。体系的な知識の枠組みがないと、情報の羅列となってしまう、心に残りません。こうした点では、書籍という媒体のほうがはるかに優れています。

ネットに出ている情報は、誰でも知っている表面的なことに限られます。本当に面白いことはネットには出ていません。面白いことは書籍の中に隠れています。本書では多くの書籍を参照しました。大学散歩の面白さは読書の面白さに支えられています。それを発掘するのも大学散歩の面白さです。本書では読書の復権を訴えたいと思います。ネットと書籍は今後も相補的な関係を続けるでしょう。本書を利用して、ネット情報の断片性を補いながら、バーチャル・ツアーを楽しんでいただければ幸いです。

<目次>

第1章 ローマ 宗教と科学がせめぎ合う歴史都市

ガリレオとブルーノの対照

ガリレオが滞在したメディチ荘

フランス古典主義美術を育てたメディチ荘

ラファエロの最高傑作『アテネの学堂』

地獄に落ちた教皇による大学創設

ローマ大学 大学都市キャンパス

医学史博物館

医療の起源となった中洲

「天使のような博士」トマス・アキナスの神学大学

スコラ哲学は知性を抑圧したのか促進したのか

第2章 ボローニャ 一度は行ってみたい大学発祥の地

第一期 建物を持たなかった中世の時代

建物を持たなかった創生期
法学発祥の地ボローニャ
学生中心の大学：学長は学生がつとめた
地獄に落とされた法学教授
法学教授の棺
教科書は学生の命
遅れてきた学問：医学とリベラルアーツ
時間通りに授業をしないと罰金

第二期 アルキジナジオ宮と近世のボローニャ大学

アルキジナジオ宮ができたワケ
アルキジナジオ宮の中を歩く
解剖の授業は身についたか？

第三期 ポッジ宮と近代のボローニャ大学

ナポレオン改革による大学の移転
知のテーマパークとしてのポッジ宮博物館
ヴィーナスの死体：解剖学の蠟模型師の系譜

第四期 現代のボローニャ大学

ウンベルト・エーコがいた大学
マンモス大学の理系キャンパス

第3章 フィレンツェ ルネサンスを生んだアカデミーの街

一時消滅していたフィレンツェ大学
フィレンツェの学問の父コジモ
イタリック体やローマン体の元をたどると
美術アカデミーと建築学部
プラトン・アカデミー跡を尋ねる
ロレンツォが育てたプラトン・アカデミー
ルネサンスを代表する思想家ピコ・デラ・ミランドラ
大学とアカデミーの補完
2つのホスピタルとラウレンツィアーナ図書館
ラウレンツィアーナ図書館
サンタ・マリア・ノヴェッラ教会と王立アカデミー

ガリレオの指まである博物館
ガリレオの娘
金沢大学にあるフィレンツェの壁画（日本で味わうフィレンツェ）
大学のかわりとなった動物学博物館ラ・スペーコラ
マルキ・ド・サドが絶賛したジオラマ：大学公認のグロテスク
ガリレオを継いだ実験のアカデミー
イタリア語の故郷クルスカ・アカデミー
みずから「カス」と名乗る集団：クルスカ・アカデミー

第4章 ピサ 斜塔を支えるテクノロジー都市

奇跡の広場 ドゥオーモ広場
ガリレオの発見の舞台ドゥオーモ広場
斜塔を救ったテクノロジー
世界遺産に臨む病院
世界最古の大学植物園
ドームス・ガリレオーナ
ピサ大学とフィレンツェ大学の微妙な関係
ナポレオンはピサ大学をパリ大学の分校とした
カヴァリエーリ広場と高等師範学校
エリート養成大学①高等師範学校
フェルミの母校
公務員扱いの学生
エリート養成大学②聖アンナ高等師範学校
ピサ生まれの数学者フィボナッチにちなむキャンパス
ピサ大学システムの不思議な関係

第5章 ヴェネツィア 文化と環境の都市としてよみがえる街

マルチャーナ図書館に立ちほだかる3つの関門
学問に関するもので埋め尽くされた大広間
ベッサリオンの蔵書に始まる
ナポレオンに翻弄されたサン・マルコ広場
解剖学者ファブリチオの遺言のドラマと謎
オクスブリッジが理想化した「ため息の橋」
2つの図書館
市民病院と墓地の島サン・ミケーレ島
ヴェネツィア大学のカ・フォスカリ宮を見る

ヴェネツィアで日本語を教えた悲劇の日本人
「欧州で子をませたのは緒方だけではない」 森鷗外
学生の街ヴェネツィア
ヴェネツィア史研究の聖地：国立古文書館
解剖用の死体も船で
仙台で客死したヴェネツィア建築大学の学長
理科系の大学キャンパス
須賀敦子が描く不治病院
須賀敦子と塩野七生の対照
事故死した息子の名前をつけたジョルジョ・チーニ財団
昔精神科病院の島、いま五つ星ホテル
環境と文化保全のヴェネツィア国際大学
ヴェネツィアを支える科学テクノロジー
文化都市としてよみがえるヴェネツィア

第6章 パドヴァ 科学革命発祥の地

ボローニャの娘 パドヴァ大学
ヴェネツィアの支配
牛を意味するボー宮
ボー宮の1階部分
おびただしい学生の名前入り紋章
ボー宮のガイドツアー体験記
ガリレオの生涯で最良の年
バシリカ
40人の部屋とハーヴェイ
ガリレオの教壇
みずからの死体を解剖用にささげた教授たち
300名を詰め込む解剖学教室
ボローニャ対パドヴァ
解剖学はこうして中世から脱皮した
解剖用の死体の目になって
ヴェサリウスの数奇な生涯
パドヴァ医学者列伝
世界で初めて学位をとった女性
「英雄の入口」のオブジェ群
新中庭と法学部
ガリレオ研究所
「科学革命」発祥の地パドヴァ

パドヴァ大学医学部
学生暴動の銃弾が残るカフェ・ペドロッキ
天文学ゆかりの地
ガリレオの家
世界遺産 大学植物園
科学者ゲーテをインスパイアした木

第7章 トリエステ 精神分析学と関連が深い街

イタリアで最も眺望のよい大学
精神医療史を保存するテーマパーク
山全体が精神科病院の跡
美術史の父ヴィンケルマン殺害：トリエステ殺人事件
須賀敦子に導かれて
ジョイスが『ユリシーズ』を書き始めた街
若きフロイトが挑んだウナギの性の謎
精神分析・ユダヤ人・トリエステ

第8章 ミラノ ダ・ヴィンチが活躍したルネサンスの街

ルネサンスを育てたスフォルツァ家
人文学者フィレルフォとスフォルツァ家
ダ・ヴィンチのパトロン：ルドヴィコ・スフォルツァ
ダ・ヴィンチのアカデミー
ダ・ヴィンチの3大芸術プロジェクト
絵は科学である：リベラルアーツの再構成
解剖学者としてのダ・ヴィンチ
ミラノ大学本部（旧マッジョーレ病院）を歩く
ルネサンスの奇人フィラレーテが設計した病院
ルネサンスの中庭をめぐる
ルネサンスの裏表
ミラノの5日間の聖地となった大学教会
ヴィスコンティ家とパヴィア大学
霧の向うの須賀敦子
バロック期の総合学術施設：アンブロジアーナ図書館
人々をカトリックに引きつけるためのバロック美術
ブレラ絵画館 知のテーマパーク
ミラノの歴史とともに歩んだブレラ宮

啓蒙専制君主による文化改革
ナポレオンへのアンビヴァレンス
イタリア統一後に国の文化教育機関となったブレラ宮
学園都市とダ・ヴィンチ広場
戦死した息子を悼んで作ったボッコーニ大学
カトリック大学の男子禁制の庭

第9章 ナポリ エロティック・アカデミック都市

ヨーロッパで最初の設立型大学 ナポリ大学
12世紀ルネサンスの継承者 フェデリコ2世
アカデミック・スパッカナポリ
トマス・アキナスの神学大学
ナポリ東洋大学
アカデミック・ポンペイ
エロティック・ポンペイ
獄窓の哲人カンパネラの『太陽の都』
ノーベル賞を17名出したナポリ臨海実験所
セッサ宮：ここではただ楽しく暮らしたくなる